

(様式2) 平成22年度〔自己評価報告書〕

- (1) 書き方については、平成19年度「学校評価報告書」P17・18を参照ください。
- (2) 評価項目設定については、各学校の実情に応じて取捨選択したり、新たな項目を各学校独自の言葉で作成したりして記入することもできます。
- (3) 学校関係者評価を実施した学校は、「学校関係者の評価」に記入してください。
- (4) 「今年度のまとめ・次年度へ向けての取組」に、今年度の学校運営のまとめと次年度への具体的な取組を記入してください。また、取組や課題に関連して、教育委員会の施策や事業に対するご意見、あるいはご要望等がございましたら記入してください。

学校番号	学校名
10	川崎市立東小田小学校
校長名	吉田 勲

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
げん木…じょうぶな子・なかよくする子 やる木…かんがえる子・はたらく子 こん木…がんばる子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの人権を尊重する学校…情操教育の充実、児童指導、生活指導、健康・安全、教育環境の充実。</li> <li>・子どもの主体的な学びをはぐくむ学校…わかる授業・できる喜び及び指導の工夫・改善、支援教育の充実、家庭学習の習慣化。</li> <li>・子どもの豊かな学びをはぐくむ環境づくりに努める学校(開かれた学校)…コミュニティ・スクールの推進、安全体制の確立。</li> <li>・教職員一人一人が専門職としての自覚をもって自己研鑽に努める学校…授業公開、研修・研究への積極的な参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権を尊重する学校…人を傷つける言葉・態度に対して毅然とした態度で臨み、他者を思いやる言葉・あいさつの励行。</li> <li>・ふれあいを大切にしたコミュニケーションの充実、個性やよさを認め一人ひとりの長所を伸ばす指導。教育環境の整備・充実及び教育相談の充実。健康・安全教育の実施。</li> <li>・主体的な学びをはぐくむ学校…わかる授業、できる喜びが味わえる指導の工夫・改善。聞くこと・話すことを重点に、考える・表現(つなげる)する力の育成。</li> <li>・具体操作・体験的活動・地域人材・地域素材を生かした活動の推進。支援教育。</li> <li>・指導体制の確立及び充実。読書活動の充実。家庭学習の習慣化(家庭との協力)。外国語活動の実践・検証。</li> <li>・豊かな学びをはぐくむ環境づくり…コミュニティ・スクールの推進、積極的な情報発信(学校掲示板)、安全体制の確立、学校評価の推進、掲示物を中心とした環境整備。</li> <li>・専門職としての自己研鑽…授業の積極的な公開、各種研究会・研修会への参加。新学習指導要領の理解と検証。若手教員の育成。校内研究授業の充実。</li> </ul>

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1 人権尊重教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○共生 * 共育プログラムに日常的に取り組み人権感覚を育ていじめの早期発見・早期解決に努める。</li> <li>○自己肯定感を育て、所属感を持たせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが活躍できる場は、意図的に多くしてきた。朝会での子どもの話の場の設定などの取り組みもよいと思う。</li> <li>・実行委員制で、一人ひとりが各活動で活躍できる場を設定した。</li> <li>・いじめについてのアンケートを何回か取り、現状把握をすることができた。</li> <li>・今年度は共生 * 教育プログラムを3回取り組んだ。</li> <li>・共生 * 教育には、研修にも取り組み、意識的に実践している。</li> <li>・共生 * 教育プログラムを学年に応じた取組を行った。</li> <li>・子ども自身の振り返りがしっかりできるようになってきた。</li> <li>・「さん」づけを徹底している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活での子どもが活躍できる場を更に広げられるよう考えていく。</li> <li>・作った教材を保存し、みんなで活用できるようにする。</li> <li>・「さん」づけについては、どのような場面で使うかを全職員で確認し継続していく。</li> </ul>
2 基本的生活習慣の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時と場に応じてきちんとあいさつができるように指導をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おはよう、さようなら、こんにちは、ありがとう、ごめんなさい等のあいさつは適宜指導し、身につけてきている。</li> <li>・低学年ということもあり、その場その場でのあいさつはできている。しかし、「ごめんなさい。」については特に友達同士の時には言うことが難しく、教師が入るまで自己主張を繰り返すことが多かった。</li> <li>・学年便り以外にも特別にプリントを作り、持ち物や内容を知らせて準備してもらうようにした。</li> <li>・よい事例を話して「あいさつをする」習慣を促しているが、定着しない現状である</li> <li>・おとなに対することばづかいが区別できずに友達に話すようにしかいえない場合がみられ、保護者会でも話し合った。</li> <li>・学習の中のインタビュー活動等を通して、ていねいなことばづかいが身につけてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その場での指導を大切にしていく。</li> <li>・根気よく教師の方から声をかけていく。</li> <li>・ていねいなことばづかいに心がけていく。</li> <li>・敬語等の使い方について家庭との連絡調整を行いながら進めていく。</li> </ul>

3	児童理解・児童指導の充実 支援教育の推進 健康・安全教育の推進	○家庭との連携を深め、学校生活で一人とりが生きるきめ細かい指導・支援を行う。 ○支援を必要とする子どもの教育的ニーズに応える体制づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が子ども達の現状を見ながら対応したり情報交換したりしてきた。</li> <li>・共通理解できた部分も多かったが、そのためにもっと時間を作る必要性を感じた。</li> <li>・学年で情報交換を積極的に行った。</li> <li>・家庭と連絡を取りたくても、必要な家庭ほど、うまく取りにくい実態があり難しい問題になっている。</li> <li>・適宜、保護者と連絡を取り、面談を行った。</li> <li>・教育サポーターの方に支援していただき、課題への取り組みがスムーズに行えた。</li> <li>・学年でよく話し合われていると思う。</li> <li>・事例研修は、ブロックごとに講師を招いて行ってもよいと思う。</li> <li>・交換授業を行い、児童の共通理解を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで通り管理職への報告・連絡・相談を徹底する。</li> <li>・より子ども一人ひとりに目を向けながら学校職員として子どもの対応を行っていく。</li> <li>・児童指導部会において、支援が必要な子ども達についての共通理解を確実にやっていく。</li> <li>・メール配信を希望しない家庭への連絡方法の確立に努める。</li> <li>・今後とも保護者との連絡を密にしていく。</li> </ul>
4	教育環境の整備・充実	○校舎内外の掲示板を計画的に活用する。 ○安全に関する指導及び点検と健康・安全に関する指導を計画的に実施する。 ○自らの体位と体力を知らせ、教科・特別活動・キラキラタイム等を通して、計画的に体力向上をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キラキラタイムの縄跳びで、8の字跳びに挑戦させることができた。めあてを持って活動するよさを伝えてきた。</li> <li>・キラキラタイムは、同じことを一年間通したことがよかった。子どもの意欲が続き、さらに上の目標を目指すことができた。</li> <li>・学年で定期的に児童の作品を掲示することで、学校公開日等で保護者の方にも見ていただくことができた。</li> <li>・学習から生まれた作品を掲示し、見合うことから児童の意欲が向上した。</li> <li>・正門のコミュニティ掲示板は、よく活用されていると思う。</li> <li>・保護者昇降口の毎月の掲示は、大変な労力と思う。壁面をPTA関係の掲示に有効に使ってもらってもよいかと思う。</li> <li>・廊下のフックが不足している。また、すぐとれてしまい、通路になっている学年は廊下に落ちて(落とされて)しまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キラキラタイムの縄跳びの継続的な取り組みは、さらに続ける。</li> <li>・季節感が伝わる掲示作りに、今後も取り組んでいく。</li> <li>・今後ともコミュニティ掲示板の有効活用を考え、地域への情報発信の一つとする。</li> </ul>
5	指導方法の工夫改善	○子ども達に確かな学力を身につけさせるために、基礎・基本に重点を置いた指導、「わかる・できる」の指導方法改善に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目で見て分かる資料をなるべく使うようにした。</li> <li>・積極的に取り組んでいる。</li> <li>・学習の目的・目標・指導内容によって、グループ・クラス全体等工夫した。(学年での活動も含む)</li> <li>・図書室・教材室や各教科等、よく整備されていて、学習が進めやすいと思う。特に、理科支援は充実していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた学習プリントをよりよくしながら活用していく。</li> <li>・各教材室・特別教室の整理整頓に心がけ、更に使いやすい教室にしていける。</li> <li>・パソコン指導員・特別支援教育サポーター等外部人材を積極的に活用する。</li> <li>・1年生の個人持ち教材を充実し、保護者の負担軽減に努める。</li> </ul>
6	確かな「言語力」を育てる授業実践	○人の話をよく聞き、考え、表現する活動を通して、学んでいく力を高める授業に取り組む。 ○子どもが本を読む機会を積極的に設けたり、図書室を活用したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語環境部会の各学年のめあてをふまえ「話す・聞く」の目標を掲示し、日常から意識して指導した。</li> <li>・話を聞いて発言したり、自ら発言したりすることは難しかった。</li> <li>・社会科等できる教材では、毎回振り返りカードを書き、全員に配布する活動を行った。話すことは活発にはできなかったが、一人ひとりが書いて考えることは少しはできたように思う。</li> <li>・ことばのキャッチボールを楽しみながら、やりとりができるようになった。</li> <li>・図書ボランティアの方々の協力を得ながら、子ども達の読書への興味関心が高まってきた。</li> <li>・図書室を積極的に活用し、日常的に本に親しめるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムの中で図書室を活用できる単元を模索し、より読書の楽しさを伝えていく。</li> <li>・担任が図書室の貸し出しシステムに慣れ、未返却の指導のみならず「たくさん本をかりた子ランキング」等のデータも活用していく。</li> <li>・校内研究とも関連して、全員で取り組んでいくことが力になった。今後も継続していく。</li> </ul>
7	家庭学習の習慣	○学習したことの定着を図るために、家庭学習を積極的に進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年で統一した方法で実践しているので、継続して、計画的に進められていると思う。</li> <li>・宿題としては、ほぼ毎日出しているが、提出率50%~70%であり、根気が必要である。(提出しなくてもよいというような悪い習慣がついている。)</li> <li>・月、火、木、金に家庭学習プリント(漢字・ひらがな・カタカナの練習、計算、音読)を行った。6月から保護者のサインをもらうことで、習慣づけるよう意識してきた。結果として定着してきている。</li> <li>・「花まるプリント」を毎日出すことにより、日々の家庭学習の習慣がついてきた。やってこなかった子への対応は、できるだけ朝のうちに点検をして、出していない子に一声かけるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別に支援の必要な子については、保護者との相談の上、本人に適した課題を出すようにする。</li> <li>・やってくる子は定着度が高く学力がついてくる。励ましながら声をかけ、提出した時にはほめる。</li> <li>・宿題については、来年度も継続していく。</li> </ul>

8	コミュニティ・スクールの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者・地域住民の学校教育への理解と協力を得る。</li> <li>○コミュニティ・スクールの特性を生かした教育活動を推進する。</li> <li>○地域・PTAや関係機関とも連携して、子どもが安心して生活できる学校になるように努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ掲示板が設置されたことにより、子ども達の活動が地域の方にも伝わるようになった。</li> <li>・コミュニティ部会の取り組みが効果的に進むようになってきていると思う。</li> <li>・職員間での各部会の報告や連携が難しかった。</li> <li>・部会の活動がもっと子どもの活動を計画する部会と関連していると思うが、どうしたらよいか難しい。</li> <li>・ふれあいプラザをはじめ、学校とPTA・地域が協力してよりよい活動を目指している。</li> <li>・国語の学習で、地域の方にお世話になり、効果的に学習を進めることができた。</li> <li>・地域の方(竹の葉会・交通指導員さん等)と昔遊びで交流した。</li> <li>・幼保小、連携をふまえ交流会を行った。</li> <li>・学校だより、コミュニティだより、学校ホームページによる情報発信に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を継続しながら、より子ども達にとってプラスとなる活動をつくりあげていく。</li> <li>・各小コミュニティ(連携・安全安心・学習・環境・評価)と委員さんとの交流をはかり、活動を活性化していく。</li> <li>・各便りやホームページ等の情報発信の工夫を加えていくようにする。</li> </ul>
9	学校評価の実施と説明責任	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評価システムに基づいて、評価活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の学校運営協議会でも行事の振り返りや日常活動の報告の中で、学校関係者と一緒に話し合いが行われ進めることができた。</li> <li>・保護者アンケートの回収率が約60%なので、回収率を上げる方策を考える必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの回収率を上げるため、校長室前の回収箱と各階に回収箱を増設していく。</li> <li>・アンケート回収の広報や各担任からの呼びかけを強める。</li> </ul>
10	教員としての資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業を積極的に公開して指導を仰ぎ、教員としての資質・能力の向上を図る。</li> <li>○実技研修等に参加することにより、自己研鑽を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年で教材について打ち合わせをし、指導方法を工夫した。</li> <li>・校内研究や外部機関を活用して研修を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究に取り組み授業力の向上に努力する。</li> <li>・実技研修の場を設定する。</li> <li>・初任研と関連づけて、各教科主任の授業実践を生かしていく。</li> </ul>
11	新学習指導要領の理解と検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>○移行措置に対応した教育課程や年間計画の実践を通し教育活動の検証をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム作成や校外研修会参加等から情報を得て努力している。</li> <li>・カリキュラム作成に取り組んだ。</li> <li>・カリキュラムの作成はしたが、内容を吟味するまではできていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究を深めていくことや研修をしていくことで、新しいカリキュラムに対応していく。</li> <li>・各学年で協力しながら教材研究に取り組んでいく。</li> <li>・教科内容のアップに対応し、計画的に授業を進めていく。</li> </ul>

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向けての取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの教育相談担当者の認知度については、担当者を複数置くのではなく、教育相談窓口を1つにして、窓口を中心に割り振ると知名度が上がると思う。</li> <li>・教育相談者としてフリーの職員を担当者にすることにより、どんな話題が多いのか記録しデータ化することで全体的な問題点がみえてくる。(人員配置の問題)</li> <li>・広報については、PTA広報誌「たけのは」やPTAOB組織の「竹の葉会」にも情報を流して広めていただくようにするとよい。</li> <li>・家庭科室のオープン等の電化製品が古いので買い替える必要がある。</li> <li>・中庭の有効利用を考えたかどうか。コミュニティ運営会議の方やグリーンボランティアの募集による、中庭の整備等の計画立案をお願いする。</li> <li>・手動加湿器(霧吹き)の使用による教室内の湿度保持に役立ち、インフルエンザの発生数が少なくなっていることから、効果が認められてよい。</li> <li>・エアコンの稼働により学校が暖かいと子どもが言い、服装が薄着になってきている。</li> <li>・アンケートの結果が何年か同じ傾向にあり、変動もあまりない状況が見られるので意味がないのではないかと。アンケートを各教科の学習内容に絞って(例えば、国語なら「漢字の書き取り」「漢字の読み取り」「句読点の付け方」等)がきちんとできるかを取り、子ども達に何が不足しているのかをグラフ化することで、重点的に学習するものがみえてくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価については、年度当初提案した年間評価計画に沿って、学校自己評価・授業評価・行事評価等を計画的に実践することができた。特に「子どもの人権を尊重する学校」「子どもの主体的な学びをはぐむ学校」「地域に開かれた学校」「教職員の自己研鑽」の四つを学校評価の基本として実践してきた。</li> <li>・前年度評価項目が19項目と多かったため、項目を精選し11項目に絞った形式で自己評価シートを作成したので、少し学校評価をしやすくなった。次年度も引き続き内容の見直しを考えていきたい。</li> <li>・保護者と子どもへのアンケートは、自己評価をする上での参考として来年度も実施するが、回答しにくかった内容もあり検討していく。</li> <li>・校舎・施設の老朽化で雨もりをはじめとして様々に改修をしていただいているところですが、さらに安全・安心の教育活動を推進するとともに、校舎内外の有効利用について検討していきたい。</li> <li>・人権尊重教育については、いじめや不登校を生まない土壌作り、教職員が一丸となって取り組んでいきたい。</li> <li>・主体的な学びについては、聞く・話す・書く・読むという態度が身につけてきており、授業での意見交換も活発になってきた。言語力の育成やわかる授業、読書活動、支援教育については、引き続き推進していく。</li> <li>・開かれた学校については、コミュニティ・スクールの活動や学校評価の活動を通して活発に進めることができた。しかし、家庭や地域への情報発信という面ではもう少し工夫の余地がある。</li> <li>・教師の研究・研鑽については、校内研究では充実した研究が行われた。さらに各教科・領域等研修会への参加体制・及び職場への還元方法を考えている。</li> <li>・特色ある教育活動を継続するために、専従職員等の人的配置をしていくべきとの意見が出された。(要望)</li> <li>・コミュニティ・スクールの推進にあたり、予算面や人的配置をしていただき感謝しています。今後もぜひ継続をお願いします。</li> </ul>